

あさのまた

浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林

面積	計： 8.22ha （置賜森林管理署）
設定目的 （管理方針書より抜粋）	<u>低山（標高360～470m）に群生している貴重な天然生のヒメコマツの林分</u> であり、この保存と学術研究に資することを目的とする。
前回調査の評価・課題等	ミズナラで穿孔のある枯損木が確認され<u>ナラ枯れの発生を確認した</u>。また、<u>ニホンジカの食痕や糞、鳴き声等を確認</u>しており、<u>周辺地域におけるニホンジカの生息状況について注視する必要がある</u>。 なお、文献等によると山形県に分布しているのは変種のキタゴヨウであり、現地調査の結果においても、球果の大きさ等から推測したところ、<u>生育しているのはキタゴヨウである可能性も考えられた</u>。
モニタリングの実施間隔	5年

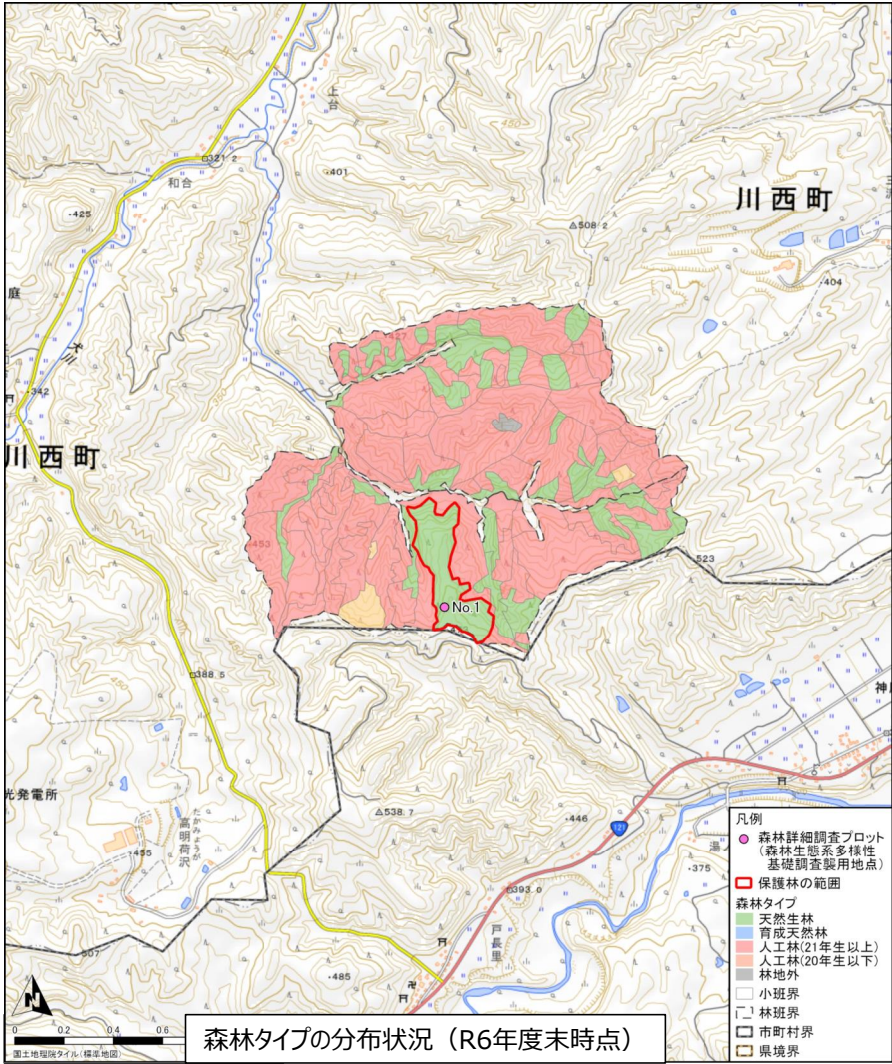
浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

デザイン

山形県置賜郡川西町玉庭に位置する天然生林。周辺の国有林は、一部に天然生林があるが、大半が人工林である。

本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。周辺の民有地のスキー場跡地やゴルフ場跡地は大規模な太陽光発電施設となっている。



浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

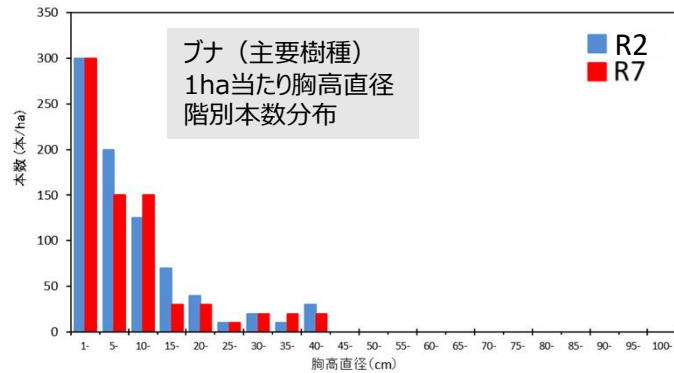
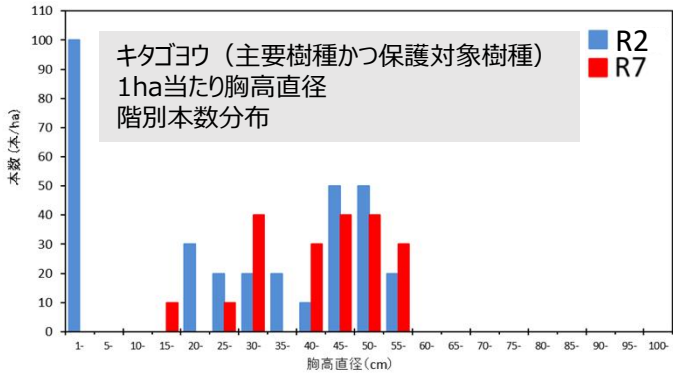
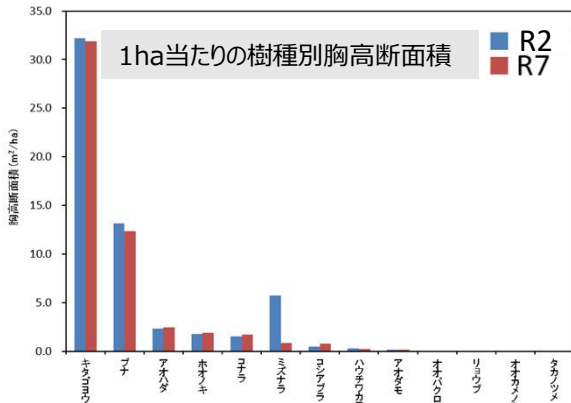
デザイン 森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査

【プロットNo.1（森林生態系多様性基礎調査）】

	R2(8月13日)	R7(6月4日)	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	R2	R7	R2	R7	R2	R7
キタゴヨウ	28.9	43.7	32.17	31.88	55.7%	60.9%
ブナ	10.0	10.0	13.12	12.38	22.7%	23.6%
アオハダ	10.2	11.0	2.34	2.44	4.1%	4.7%
ホオノキ	33.8	34.7	1.81	1.89	3.1%	3.6%
コナラ	44.5	46.5	1.56	1.70	2.7%	3.2%
ミズナラ	42.0	32.7	5.72	0.84	9.9%	1.6%
コシアブラ	15.5	17.0	0.47	0.80	0.8%	1.5%
ハウチワカエデ	6.9	6.4	0.28	0.24	0.5%	0.5%
アオダモ	9.3	9.8	0.17	0.19	0.3%	0.4%
オオバクロモジ	1.2	1.2	0.04	0.02	0.1%	0.0%
リョウブ		1.1		0.01		0.0%
オオカメノキ	1.2		0.01		0.0%	
タカノツメ	1.2		0.01		0.0%	
13種			57.70	52.38	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種および保護対象樹種を示す。



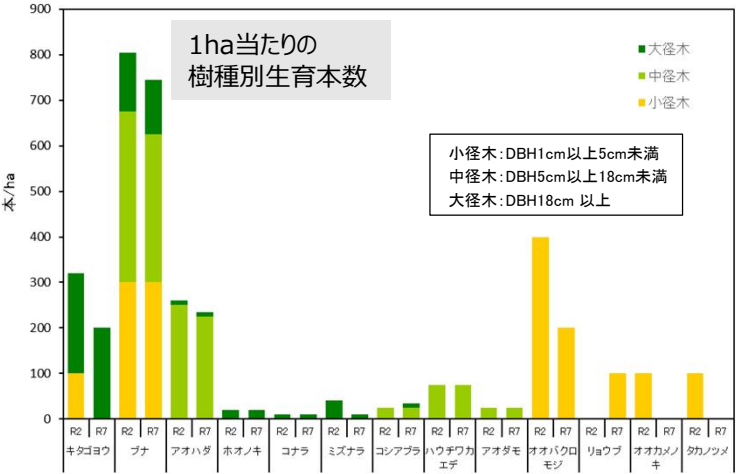
- ・キタゴヨウ及びブナの胸高断面積は微減した（キタゴヨウは20cm程度が数本枯死）。
- ・キタゴヨウでは胸高直径階の進階が確認され、胸高直径階は30～55cm階に多く分布し、15cm未満の個体は確認されなかった（※図上では5cm未満が大幅な減少を示すが、小円内の1.3cmの小径木1本が消失したのみであり、ha当たりへの換算のため多く見える）。
- ・ブナの胸高直径階はL字型の分布を示し連続的な更新が行われている。

デザイン 森林生態系多様性基礎調査 下層植生調査結果

【プロットNo.1森林生態系多様性基礎調査】

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	R2	R7	R2	R7
キタゴヨウ	320	200	14.7%	12.1%
ブナ	805	745	36.9%	45.0%
アオハダ	260	235	11.9%	14.2%
ホオノキ	20	20	0.9%	1.2%
コナラ	10	10	0.5%	0.6%
ミズナラ	40	10	1.8%	0.6%
コシアブラ	25	35	1.1%	2.1%
ハウチワカエデ	75	75	3.4%	4.5%
アオダモ	25	25	1.1%	1.5%
オオバクロモジ	400	200	18.3%	12.1%
リョウブ		100		6.0%
オオカメノキ	100		4.6%	
タカノツメ	100		4.6%	
13種	2180	1655	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種および保護対象樹種を示す。



調査区	R2		R7	
	N区	S区	N区	S区
低木層の植被率(%)	50	60	10	60
低木層の優占種	オオバクロモジ	オオバクロモジ	オオバクロモジ	オオバクロモジ
草本層の植被率(%)	30	50	40	30
草本層の優占種	アカミノイヌツゲ	ヤマツツジ	オオバクロモジ	オオカメノキ

出現種数	18	29	21	31	環境省RL	山形県RL
アオダモ		○				
アカイタヤ		○		○		
アカミノイヌツゲ			○			
アケシバ	○	○	○	○		
アズキナシ	○	○	○	○		
イワガラミ			○	○		
イワナシ	○					
ウラジロノキ			○			
ウラジロヨウラク			○			
ウリハダカエデ	○	○	○	○		
ウツミズザクラ				○		
エゾユズリハ	○		○			
オオカメノキ	○	○	○	○		
オオバクロモジ	○	○	○	○		
オクチョウジザクラ		○		○		
ガマズミ				○		
キタゴヨウ		○		○		
コシアブラ		○		○		
コハチワカエデ	○	○				
コミナカエデ				○		
シシガシラ		○				
シュンラン		○				
ショウジョウハカマ	○		○			
スゲsp.		○				
スゲ属				○		
タカノツメ		○		○		
タムシバ		○		○		
チゴユリ	○	○	○	○		
チシマザサ	○	○		○		
チマキザサ			○	○		
ツシマナナカマド				○		
ツルアリドオシ	○	○	○	○		
ハイイヌツゲ	○	○	○	○		
ハウチワカエデ				○		
ハクウンボク				○		
ヒメアオキ			○			
ヒメモチ		○				
ブナ	○	○	○	○		
ホツツジ	○	○	○	○		
マルバアオダモ				○		
マルバマンサク		○				
ミズナラ		○	○			
ミヤマガマズミ	○	○	○	○		
ヤマウルシ	○	○	○	○		
ヤマツツジ		○		○		
リョウブ		○		○		



プロット1の中心杭付近の林床

- ・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった。
- ・キタゴヨウの実生が確認された。
- ・絶滅危惧種等の重要種は確認されなかった。

- ・保護対象樹種であるキタゴヨウの生育本数が前回調査から減少（1.3cmの小径木1本が消失、20cm前後が数本枯死）
- ・プロット内でミズナラが数本枯死しており、前回調査以降もナラ枯れが継続していた可能性がある。
- ・生育本数が最も多いのは主要樹種のブナである。

デザイン

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	プロット内でミズナラの枯死が確認され、前回調査以降もナラ枯れが継続していた可能性
鳥獣害	記録なし (前回ニホンジカの痕跡が確認されたが、今回はなし)
気象害	記録なし



調査地の外観（プロット2）

デザインに関する評価

基準	指標	結果
希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている	希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった。
		下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった。
		新たな森林の被害は確認されなかった。

浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林

価値

保護対象樹種キタゴヨウの生育状況

項目	結果
被害等	記録なし。
キタゴヨウの生育状況	高木層、亜高木層、草本層で生育を確認。ただしプロット内の全個体が大径木であり、実生は見られるものの、小径木など後継樹の成長は滞っている。

実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)
--------	-------------------------------



林相



キタゴヨウの実生

価値に関する評価

基準	指標	結果
保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している	保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況	保護対象樹種キタゴヨウの被害は確認されなかった。 キタゴヨウの生育に大きな変化は確認されなかった。 生育環境は維持されていると考えられるが、プロット内でキタゴヨウの実生はあるものの小径木は存在しなかった。

浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林	実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)
利活用		

・学術論文等は確認されなかった。

利活用に関する評価		
基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、 学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	学術研究等への利用は確認されなかった。

管理体制

- ・置賜森林管理署：保護林に至る林道から見える範囲で巡視を実施している。
- ・山形県置賜総合支庁：巡視等は実施していない。

管理体制に関する評価		
基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組 実績、巡視状況等	十分な管理体制が取られている。

浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林
まとめ・考察

実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)
--------	-------------------------------

総括表【プロット1】

調査年度		R2	R7
調査日		2020/8/13	2025/6/4
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	E、23°	
	局所地形	山脚堆積斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	キタゴヨウ、ブナ	キタゴヨウ、ブナ
	【高木層】植被率	-	-
	【高木層】樹高	12～28m	13～30m
	【高木層】DBH	20～60cm	20～60cm
	【草本層】優占種	アカミノイヌツゲ、ヤマツツジ	チシマザサ、ハイイヌツゲ
	【草本層】植被率	30～50%	20～30%
林分等の状況		保護対象樹種が高木層、亜高木層で良好に生育していた。草本層では実生が確認された。ミズナラにナラ枯れによる枯損木が確認されたが、保護対象樹種の被害は確認されなかった。	保護対象樹種キタゴヨウ、主要樹種ブナともに良好な生育を示していた。キタゴヨウの実生も確認された。ただしプロット内の全個体が大径木であり、後継樹の成長は滞っている。新たなナラ枯れ被害は確認されなかった。
林況写真			

現地調査結果総括・考察【プロット1】

- ・保護対象樹種のキタゴヨウの大径木が高木層から亜高木層に生育し、主要樹種のブナが混生している。
- ・前回調査同様にプロット内にてキタゴヨウの実生が確認されたが、小径木は今回確認されなかった。
- ・胸高直径15cm未満の個体も存在せず、後継樹の更新は滞っているように見受けられる。
- ・今後、林冠木が枯死することで、キタゴヨウの実生が成長して後継樹として育つものと推測される。
- ・ミズナラの枯死が確認され、前回調査以降もナラ枯れが継続していた可能性がある。
- ・森林タイプの分布状況の変化や病虫害・鳥獣害・気象害は特に確認されず、本保護林は全体として安定して維持されていると考えられる。

まとめ・考察

全体まとめ

- ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されていることが確認された。
- ・課題については特段確認されなかった。
- ・キタゴヨウ又はヒメコマツの可能性がいずれも考えられるため、遺伝子解析を行い種の同定を試みる必要がある。

評価を踏まえた今後の対応等

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた 今後の対応について	・定期的な巡視を継続 ・10年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	原則として自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。 ※現行どおりとする。